

平成 28 年度 第 2 回志摩市地方創生審議会 議事概要

日 時 平成 28 年 11 月 29 日 (火)
午後 3 時から午後 5 時まで
場 所 志摩市役所 6 階 602・603 会議室

1 あいさつ (志摩市長)

- ・ 志摩市の人口が減少している。(少子化、漁業者の減少が起きている)
- ・ 住民の皆様の知恵をお借りすることが大事である。
- ・ 志摩市では実効性のある取り組みを進めていく。

2 協議事項

(1) 人口ビジョンの改訂について

資料 1 志摩市人口ビジョン データ修正及び追加一覧

(2) 総合戦略の改訂について

資料 2 志摩市創生総合戦略改訂 (案)

(3) 人口ビジョン及び総合戦略の概要版の作成について

資料 3 - 1 志摩市人口ビジョン 概要版

資料 3 - 2 志摩市創生総合戦略 概要版 (第 1 期)

(4) 具体的な施策企画書の作成について

資料 4 具体的な施策企画書

(5) その他

3 議事

(1) 人口ビジョンの改訂について

ア 事務局説明

「資料 1 志摩市人口ビジョン データ修正及び追加一覧」について説明。

イ 意見交換

(岩崎会長)

- ・ 市から人口ビジョンの改定、データの修正に関して報告だった。
- ・ 個々のデータそれぞれについて意見もあるかと思うが、他の議事もあるので、次回の改訂に向けて、こういうデータを追加してほしいや、もう少しこのデータについて深堀してほしいなど、データの追加や修正があれば提案をいただきたい。
- ・ 毎年度、改訂するということであるので、今気づかなくても、気づいたことがあれば、随時事務局へ連絡をいただければ、追加するかどうか検討する。

(加藤副市長)

水産業については、水産業振興計画を次年度策定する関係で、あえてここに関する情報も載せていければと思う。

(齋藤副会長)

もし可能であれば、地方創生の中でいつも女性の転出が話題となっているので、「42. 年代別 転入転出数」で特に 20 歳から 39 歳の転出数の推移がわかる表を一枚足していただきたい。

(2) 総合戦略の改訂について

ア 事務局説明

「資料 2 志摩市創生総合戦略改訂（案）」について説明。

イ 意見交換

(岩崎会長)

提案としては「3 - 8 志摩市の食材を生かした食育推進事業」は削除ということで意見を伺い、将来的にはさらに提案があるということによいか。

(事務局)

- ・この事業の担当課と話をし、この事業の目的の「子どもたちに地域の産物を食べてもらうこと」や、「生産者の方が学校を訪れて、生産者の思いや苦労話、地域への思いなどを伝える場を必ず設けること」を踏まえて事業を構築すると約束をしている。
- ・給食センターでこの事業を進めていくのは見合わせ、次回審議会以降に新たな事業を提案したいと考えている。

(岩崎会長)

ただいまの総合戦略の改訂について、委員の皆さんから意見をいただきたい。

(事務局)

もしこういう事業をしてはどうかという提案があれば、随時検討をするので、積極的な意見をいただきたい。

(岩崎会長)

- ・ここにあげていない事業であっても、結構であるので、いかがか。
- ・新しい事業を具体的に提案することは、ハードルが高いが、事業を形にするのは行政の仕事であるので、皆さんには夢を語っていただき、後は行政の仕事であるので、投げかけていただきたい。

(東川委員)

- ・給食についての取り組みについて、給食センターが「ふるさと給食」の取り組みで、船越味噌を使った味噌汁などを取材させてもらっている。
- ・それ以外に地域の産業で、安乗であるりふぐを扱い料理の開発しているグループが、地元小学校の給食でふぐ料理を食べさせて、地元の産業、ふぐのおいしさ、地元で獲れるもののすばらしさをそういった形で伝え、毎年この取り組みを続けている。
- ・実際にふぐを引いて「てっさ」を作ったり、食べたりして、自分が生まれ育つまちで、こんなにおいしいものが獲れるということを学ぶことができ、ま

た、一生懸命に料理を考えている人たちの取り組みも知ることができ、すごく良い取り組みであると思う。

- ・他の地域でもそういったことをやろうと思えばできると思う。例えば、真珠の貝柱が獲れるので、立神小であれば自分たちが育てた真珠を取り出した後に、貝柱を食べるとか取り組みをしている。
- ・こういった取り組みは、その団体が費用を持ち出している部分があると思うので、市が助成したり、市が手助けできる部分があるのではないかな。
- ・毎年、地域の団体が主体となって取り組みを行っているが、負担もあると思う。給食センターでの取り組みが難しいのであれば、地域ごとで取り組んでいる団体が、その取り組みを続けていけるよう市が支えることはできないかな。

(加藤副市長)

- ・この会議の前に、市役所内でもいろいろ議論した。地域の方々が地元の子どもたちに提供している取り組みがあるので、教育委員会で事例をしっかりと調べて、考えてほしいと指示をしている。
- ・地域の子どもたちに地域の良いものをどれだけ知ってもらえるかが大事であると思う。ご指摘いただいたとおり行政側で実施できない場合は、民間の方々の取り組みを支援するという形で、いただいた意見を参考に検討させていただきたい。

(岩崎会長)

ご意見いただいた方向で再検討し進めていくということによいか。全市的な単位でなく、小学校、中学校の単位で進めていくということであるので、ご意見を参考にさせていただければと思う。

(齋藤委員)

- ・若者が地域で活躍する場があってもよいかと思う。地域にインターンシップで入るなど、検討いただきたい。
- ・これは、皇學館大学だけでなく、すでに実施している三重大学、立命館大学も合わせて取り組んでいただきたい。

(竹内委員)

- ・里海など自然科学系のことに関しては志摩の特色として取り組みがある。
- ・国立公園を文化・芸術の観点から見る取り組みや、民俗資料館や図書館を活用した取り組みなど、文化的な深みがあって、おもしろそうというものが、1つでもあってよいのではないかな。
- ・コンテンツとして発信するのとは別で、地元の方が楽しめて文化的な刺激が受けられるような、そういう人たちが大勢いるということがわかるような仕組みをどこかに作ってほしいと思う。
- ・既存の文化協会はあるが、作品を見れば、その規模や質はわかる。演芸やカラオケが悪いと言うわけではなく、演芸のおもしろさ、カラオケのおもしろさをいかにカッコよくみせるか、ポップカルチャーから漫画も含めて、志摩独自のものとして、「志摩に来たら面白いものがある。」「外国人も喜ぶ。」と

いうもの、場所や連携が必要ではないかと思う。

- ・こういったものは見えにくいので、その人たちが活用できるような場所や連携を1つ作っていただきたい。

(中西委員)

- ・資料を見ていると、数値的にはマイナスで、けしてプラスではない。右肩下がりである。平成72年には志摩市の人口が3万人になると出ている。
- ・これに対しては、志摩市の行政機構も3万人規模にしていくことが大事だと思う。今回の話とは、直接関係ないが、身の丈に合ったことを考え、財源は限られているので、「市民ファースト」で考えていくことが大事だと思う。
- ・資料の社会増減(資料1 42. 年代別 転入転出数)を見ていると、20歳から29歳まで一番の働き手、中心となる年代の減少率が一番大きい。ここに対策をしないと、どんどん志摩市から人が移っていく。そこを行政が主導権を取り、官民で考えていく最大のポイントである。
- ・志摩市で雇用の場を創出することが一番のポイントと思う。
- ・いろいろ資料をもらったが、将来どうなっていくのか心配である。このメンバーもそうであるが、みんな考えないと急速に疲弊していくと思う。
- ・今年は幸いにも、サミットでいろいろと盛り上がった。このサミットの効果を行政がもう少し活用すれば…。せっかくのチャンスであったが、今のところ具体的に市の施策が見えてこない。
- ・新市長は横山の園地を整備していきたいと言ってはいるが…。
- ・この夏、横山園地は連日大型バスが入り、すごい人だった。
- ・他の人から横山では「制限があって何もできない。」と言うことを聞いた。
- ・せっかく大型バスが来ても、それに対する受け入れ態勢が以前と何もかわっていない。ジュースの買う場所もない。せっかくある施設も、休館日でお客さんを受入れできていない状況もある。
- ・もう少しサミット効果を持続していくよう取り組みを、もっと早く起こさないといけないのではないか。言っているだけではだめだ。
- ・国立公園のメインのところであるので、環境省も力を入れて対応いただきたい。

(加藤副市長)

- ・淡々と説明すると減っている数値が多いが、個別に見て行くと若干増えているところもある。産業生産額でみるとリーマンショックが終わって、平成21年から徐々にではあるが、数値は増えてきている。
- ・外国人観光客についても増えてきている。また、観光客全体で見ると日帰り客は若干減ってきているが、10年前と比べて宿泊客は増えている。
- ・増えているものもあるので、そこを伸ばしていくことが大切だと思う。
- ・雇用の場をつくるということについては、大きな企業を誘致するのは難しいので、今ある観光産業、一次産業、加工業の二次産業について、どのように横のつながりを作り、地域で付加価値を高めていく取り組みを行っていくか、その成功事例をどんどん地域の人達に展開していくか、だと思う。

- ・先ほど文化の話でもあったが、志摩にはおもしろい作り手がいるので、その方々をどうやって目立つ存在にして、志摩を発信していくかということだと考えている。
- ・サミット効果に関しては、そもそもサミットのある無し関係なく、地元の産業が衰退してきている状況の中で、民間事業者がサミットに向けて、その後の成長のためにどれだけの努力をしてきたのかということがある。その努力がないなかで、もともと下がってくる状況を、たまたまサミットがあったから、サミットを切り口にして見ると、サミットがあって下がったという現状分析をしているのではないのでしょうか。効果があるかないかわからないサミット効果という言葉が先走りしているのではないかと思う。
- ・先日開催されたエコツーリズム大会には、全国のエコツーリズムをされている方や海外の方がいらっしゃって、志摩市のことを見ていただいた。「ホンモノがある。」、「ストーリーがある。」、「こんなすばらしい日本があるんだ。」と評価していただいた。まだまだこの地域の持っている価値があり、そこをどうやって高めていくのかが大事なこと。
- ・環境省にも、2020年までに世界のブランドにしていくということで国立公園満喫プロジェクトの8つの地域のうちの1つ伊勢志摩国立公園を選んでもらっている。
- ・そういった取り組みと文化的な取り組みをセットにしながら、この地域をカッコよく見せていくことが大事で、そのなかで活躍している大人を地域に見せることが大事だと思う。
- ・若者の人口が流出することについては、「資料1 14 年齢層別の転出数と転入数」を見ると、20歳から29歳が一番転出しているが、一方で一番転入してきているのも、この世代となっている。地域に魅力を感じて、戻ってきているのではないかという印象を感じている。そういう感覚と地域に戻る能力のある若者をどういう風につなげていくのかだと考えている。

(雨宮委員)

- ・若者が出ていく原因は、仕事がないという原因だけではないように思う。
- ・志摩は非常に恵まれていて、その気になれば仕事はいくらでも作れる、お金も稼げる場所だと思う。問題はなぜ若者がこの地域に留まらず出ていくのかであると思う。
- ・横山についてご指摘いただいたとおり、サミット後、観光客が倍増し整備や案内が追い付いていない現状がある。
- ・国立公園満喫プロジェクトに選ばれて、施設整備の予算がついているので、より快適な形で横山の利用環境を考えていきたい。同時に、地元へお金が落ちる仕組みも重要と聞いているので、バランスを取りながら利用環境の改善を図っていきたいと考えている。

(中西委員)

聞いた話では、横山の下から展望台まで登ってくる観光客へ説明やジュースやお茶を移動販売で提供したいが、環境省にきくと提供が難しいとうわさで

は聞いている。

(雨宮委員)

必ずしも、できないというわけではない。私たちの横山の整備計画は、今後横山をナショナルパークとして世界に売っていくことで、「国立公園です。」と胸を張って言える場所にしていきたい。

(中西委員)

理想はわかるが、現実的な対応として、下から展望台まで歩いてきて喉が渴いたお客様に提供できるように整備をしてほしい。早くしないと、お客様が来なくなってしまうと思う。

(雨宮委員)

- ・トリップアドバイザーという口コミサイトがある。志摩で一番満足度が高いのは横山である。
- ・横山が、なぜ一番評価が高いのか考えていただきたい。10分程度登った先にきれいな景色があるというのが満足度を高める一つの効果になっていると思う。そのあたりも踏まえて、何でも利便よくすれば良いのか、今いただいた問題もあるが、志摩で一番評価が高い観光地であるので、それを壊さないように慎重にしていきたいと考えている。

(中西委員)

地元からたくさん意見を聞いているので、伝えさせていただいた。

(尾間委員)

- ・世界自然遺産などが好きで結構回っているが、どこもはっきり言って不便だった。そこでは、出発前にガイドが、服装や靴、持ち物について説明があり、必ず飲料を持参するように説明がある。それが良いということではなく、それがスタンダードになっていると思う。
- ・自分の経験上、汗をかいて歩いて景色のきれいなところにたどり着いたときに、自分の水筒をあけて飲んで「良いなあ。」と感じるあの感じが、横山展望台の目指すスタンダードに近いと思う。
- ・展望台に登って、自販機で飲み物を買って飲むのも良いが、どちらかというと、そういうところは少ないように思う。
- ・皆さんにとって良いというのは難しいと思うが、環境省がどこを到達点に置くかのビジョンを地元の方に示してもらえれば、わかってもらえるのではないかな。

(雨宮委員)

一つのビジョンとしては、ナショナルパークとして外国人に売っていくということがある。伊勢志摩国立公園の中で、「ここが国立公園です。」と胸を張って言える場所は少なく、数少ない場所であるので、横山に自販機を設置するのは、ちがうと思う。

(中西委員)

自販機を置いてほしいと言っているのではなく、おもてなしができる体制をとることができないか。

(城山委員)

地元の人が動いてはどうか。それだけの声が出ているのであれば、地元の人がボランティアではどうか。

(中西委員)

観光客があれだけ来ていただいているので、なんとかできないかと意見がある。しかし、現実的にそれがなかなかできない。

(城山委員)

- ・地元の人がそこをやらなければと思う。九州大学などの大学の先生が志島を訪れて、「小さい地域であるかもしれないが、すごいことをしている。」と評価をいただいている。
- ・私の活動は県外から9人を連れてきているが、行政からは何もしてもらっていない。支援は自分たちで探した。
- ・農林中央銀行の基金に応募して、働きたい高齢者を集めて2時間くらいの仕事をして、実際に地域が活性化している。それを大学の先生や小泉進次郎議員が来て、「日本にこういう組織はない。」と評価をもらった。
- ・私たちの組織は志摩市にお願いをしてつくった組織ではない。地域が沈没していくという思いから、人を増やしただけで、それを今でも市にやってほしいとは要望していない。
- ・地域の人取り組みに対して反対意見がないので、できている。それは地域性があるので、私の地域がそうであるから、隣の地域がそうだとは言えないが、そういうことなのではないか。
- ・自治会長さんが横山についてそのような話を聞いているのであれば、何か良い方法はないかと話をし、行政へ話を持っていくのが良いのではないか。
- ・その中には必ず支援をしてくれるところがあるはず。私は支援をしていただいた。行政からはしてもらっていないが、他の団体からしてもらっている。
- ・それは自分たちが努力をして、それを認めてもらっているから支援がいただけている。地域の人が一生涯懸命しているから支援がある。
- ・鶴方は人口も多く状況が違うと思うが、それでも何か方法はあると思う。

(岩崎会長)

副市長から指名があったので、清水さんから志摩に来られて思うことなどを伺ってよいか。

(清水委員)

- ・ホテル業で東京に住んでいたが、今は1年8か月位志摩市にいる。
- ・先月は約700名の外国人の方が来てくれた。できるだけ地元と共存共栄、地元の文化伝統をいかに世界のお客様に持って帰ってもらうかを私たちの使命と考えている。
- ・横山に関しては、お客様からクレームをもらったことが全くない。私も何度

か行っている。私が一番感動したことは、ビジターセンターにいる人のやさしさ、英語の案内があること。あそこには、日本語と英語、各種言語の案内やパンフがあり、全部無料で、とても親切に説明してもらえる。

- ・外国人も日本人のお客様も歩きたい方がたくさんいる。適当に歩いて、上まで行って、写真を撮って帰ってくる。それで足りない人は、合歓の近くから横山まで1時間くらいで歩いて行ける道があるが、そこを「誰にも会わなかった。それが良い。」と喜んでいる。
- ・みなさんが言うのは、「空が広い。」「高い建物が無いから、空がきれい。」「海がきれい。」といったことに感動されている。この環境で育っている方は、志摩で育ったからこそわからない「ここの良さ」にまだ気付いていないのではないかと思う。
- ・よそもので、たまたま数日志摩に来た人が感じる志摩の良さは、「星がきれい。」「人が良い。」「天気が良い。」「空がきれい。」というようなことである。
- ・何年か先にこうあって欲しいというのがあるが、その中に「自然が壊されたくない。」というのがあった。私はそれに大賛成で、今ある海のきれいさとか、空のきれいさとかを維持していければと思う。

(岩崎会長)

- ・事務局から提案のあった改訂の内容については意義ないか。
- ・異議なしということで、次の議題に移らせてもらう。

(3) 人口ビジョン及び総合戦略の概要版の作成について

ア 事務局説明

現在作成中の「資料3-1 志摩市人口ビジョン 概要版」、「資料3-2 志摩市創生総合戦略 概要版(第1期)」を説明。

イ 意見交換

(岩崎会長)

概要版について、何かご意見等はいかがか。

(竹内委員)

- ・総合戦略の概要版について、全体的に見たときに「市民」という言葉が目につく。まちを構成する単位は「市民」と「行政」と何かを考えたときに、志摩の強みや特徴は、近鉄やとても大きな資本の観光施設が志摩にはあることである。これはとても大事なことだと思う。
- ・「産・官・学」とあって、「学」であれば立命館、三重大学、皇學館大学と名前が書いてあるが、「産」になると、地元で起業したところや、漁業など一次産業になる。イオンや近鉄、三井不動産、アマネムが姿を潜めてしまう。
- ・大きな資本の事業者と一緒に取り組んでいくことも志摩市の構成要素であるので、そのニュアンスが読んでいて感じられない。
- ・近鉄やアマネムという大きな資本があることは、このまちの強みである。事業者名を入れなくても、文章のそこかしこに“匂わせて”、「志摩は他とはちがう。大きな資本も志摩を活用しようとしている。」ということをもっと

打ち出しても良いのではないか。文章の書き手にその意識があるかないかで違うと思う。

(加藤副市長)

- ・おっしゃる通りだと思う。総合戦略の中身を変えなければならないと考えている。正直、具体的な企業名を出して書くのは難しいと思うが、そうした企業が強みではあるのも確か。ただし、分解して地域を見ていくと、本当の強みは小さいところも持っているというのものもある。
- ・近鉄とは具体的な取り組みの中で連携させていただいているものもある。別の取り組みでは、清水さんに意見を聞いたり、東京へ行ったときに、三井不動産の方々に会ったりということもある。それをどこまで表に出すのかは、検討していきたい。
- ・しかし、「匂わせる」というのは大事であると思うので、検討していきたいと思う。

(岩崎会長)

地方創生の取り組みでは、従来の計画よりも効果的なターゲットを絞っている部分もあるので、そういった産業が地方創生の取り組みに関わってくるのかどうかも含めて検討いただきたいと思う。匂わせ方も検討いただきたい。

(4) 具体的な施策企画書の作成について

ア 事務局説明

「資料4 具体的な施策企画書」を説明。

イ 意見交換

(岩崎会長)

ご意見等いかがか。

(竹内委員)

- ・資料 NO. 4 「5 - 1 地域の仕事カケモチ型就業推進事業」は、先ほどの人口ビジョンでもあった新しい働き方だと思う。この目的に書いてある方向でいくと、ずれがあると思う。
- ・ここの目的は、「志摩の仕事の特徴を生かして仕事を複数アルバイト的な働き方をして、一次産業やサービス産業で働きながら安定した収入が得られるような働き方を検討する。」である。
- ・その次は「雇用の創出と産業振興を図る。」とあり、これは余分である。ここの目的ではないと思う。
- ・仕事の形態としてカケモチ型仕事という仕組みをつくることで、働き方を地域に合わせて働くことができ、収入は1年の内全部働かなくても、3分の1や半分働いたら、ある程度もらえるというものである。
- ・収入がある程度もらえるだけでは不安で、社会保障的な底支えが必要だと思う。志摩でカケモチ型仕事を続ければ、保険や社会保障的なものがあり、それが保障されるのであれば、私は「志摩では特別な働き方があって、アルバ

イトでも社会保障的なものがある。しっかりと長いこと働いていれば、老後を心配しなくてもいいよ。」あるいは「年金が出るよ。」「アルバイトだからと言って心配しなくてもいいよ。」と子どもに言えて、だから「戻って来い。」と言える。

- ・目的に「雇用の創出と産業振興」を書くと、ブラック企業のように思う。アルバイトで雇って、産業の方が良くなるという書き方は良くないと思う。
- ・働き手の若い子たちや働き手の親が安心して子どもをそこで働かせられる、「アルバイトでいても良い。」という意識に変えられることがカケモチ型仕事のメリットと思うが、いかがか。

(加藤副市長)

- ・ここで意図しているのは、単純なアルバイトではない。志摩の産業を見たときに、基本的に1年を通じて雇用される仕事が少ないという現状がある。その中で、養殖業や漁業、加工業などで、一時的に多くの人手が必要となる時期があり、そういったところを繋ぐことができないかと考えている。
- ・当初は、夏場はガイド業などでレジャーを提供して、冬場は仕事がないから養殖業に勤めるということを想定していた。地域にすでにある事業で、ある時期に人手が足りなくなる事業をうまく合わせれば、1年間を通じて収入が得られて食べていけると考えた。
- ・さらに「雇用の創出と産業振興」を書いてあるのは、一次産業の担い手は数が減っており、本当はそれ一本で食べていけるのではないかという実情がある。
- ・そういう働き方を奨励していくことで、今ある一次産業そのものを担っていく人も増やしていければという意図があり、こういう書き方をしている。
- ・社会保障の面でいえば、竹内さんのおっしゃるとおりだと思う。日本ではフリーランスで働いて、自分で自分の社会保障を確保するというのは、主流になっていないが、現実として起こってきているので社会保障についても考えていく必要はあると思う。

(竹内委員)

「若い女性が子どもを育てながら旅館のアルバイトである程度働いている。」、あるいは、「親の介護があり働く時間が限られている。」など、女性の働き方として、全部は働くことができない状況を想定し、志摩で細切れでも通年働ければ社会保障があるということ考えた。

(事務局)

- ・この事業の担当をしている。この事業で一次産業の担い手が少ないということを知り、一方、子育て世帯の方が定時での雇用をされないという話を聞いた。
- ・三重県真珠養殖連絡協議会から話を聞いたところ、真珠の核入れ作業は、フルタイムではないが、一日のうち、子どもを預けてから働いて、子どもが熱を出せば休むこともできる、ということだった。
- ・現在、漁協、農協からハローワークには載らない一日のうち数時間だけの仕

事の募集をホームページにアップしたいと考えている。子育て世代の方の応募があるのではないかと見込んでいる。

(竹内委員)

- ・それが動き出す時に、ハローワーク、保険会社、社労士など専門の方と、事業者、若い人、子どもを呼び戻したい親世代などがチームを組んで、志摩独自の底支え制度、働き方に対する社会保障制度を検討することも合わせてしていけば、どうか。
- ・そういう特別なものを一つ発信できれば、他の自治体と違うということが打ち出せるのではないか。

(城山委員)

私たちの地域の女性も、加藤副市長が言ったような働き方をしている。海女として来ているが、海女は4月～9月までで、冬の期間は仕事がない。たくましいもので、自分で旅館や観光列車への乗車、ミカン農園など仕事を探してきている。自分で海女になると決めて来た方は非常に強いと感じている。

(中西委員)

具体的施策の一つとして、地域の伝統文化の育成やお祭りについては、地域が元気になる源になると考えているので、一つ入れていただきたいと思う。祭りをとおしての絆づくりも大事ではないかと思う。志摩にはたくさんの伝統文化、祭りがあるので、ぜひ活用いただきたい。

(城山委員)

ここで決めたことや意見は、どういう風の実現するのか。

(加藤副市長)

予算付けや要綱を作って、取り組みができるようにしていく。

(城山委員)

この取り組みの体制はどういう形になるのか。

(加藤副市長)

市役所の総合政策課が主導で、担当課と市役所でしっかりと対応していく。

(城山委員)

それが心配で、ここで良いものを決めても、蔵に入っていない意味がない。

(加藤副市長)

ここに書いてあるものは、実現に向けて動いているもの。できないことはやめていく、できるように変えていく、ということをしている。

(城山委員)

皆さん、良いことを言ってもらっているので、この意見を受けて修正し、良いものができて、いったいどういう風に進めていくのかが見えないので、しっかりと進めていただきたい。

(加藤副市長)

- ・ダニエル・ピンクの「フリーエージェント社会の到来」という本には、人材派遣会社に自分たちの保障を牛耳られるのが嫌だということで、フリーエージェントのためのフリーエージェントによる共済組合みたいなものを立ち上げている人が紹介されていた。それを志摩で具体的な施策として検討していくのもありではないかと思った。
- ・祭りの関係では、アマネムのコンセプトが「日本の伝統文化を持って帰ってもらう。」ということなので、アマネムのお客様が地域のお祭りにアクセスしやすくしていくことができると思う。
- ・地域の人にとって、外国人がお祭りを見に来ることで、「俺たちカッコいいことやっているのかなあ。」というプライドにつながる。祭りを見ていただくお客様にとっては、唯一無二の経験になる。そういうつながりを作るのが良いのではないかと思う。
- ・祭りの日時が早めにわからないとお客様が来られない。お祭りの開催日時や場所についての情報整理の必要がある。お客様を祭りに連れてくるには宿泊施設と地域のつながりがないと難しいと思うので、そこを行政が間に入りつなげるような文化振興と観光振興をくっつけた施策もあるのではないかと思う。

(齋藤副会長)

- ・先程のワークシェアリングの話で、他市の事例で「あきしプロジェクト」がある。「あきし」とは、昔、漁業者が漁業が終わって、農業の繁忙期に手伝いにいくことを方言で言っていた。伊賀市のイチゴ農家等で現在取り組みをしていて、獲れる作物によって忙しい時期が異なるということで、その地域の子育て世代のお母さんたちが、一人のお母さんが子どもの面倒を見て、他のお母さんは農作業に行くという取り組みをしている。
- ・そこで、人によって仕事の能率が違うため給料の支払いに影響するということが課題となっており、その下支えをどうしたら良いか方法を考えている。
- ・真珠の核入れも、器用な人とそうでない人がおり、同じような課題が出てくると思う。そのあたりを行政で支えるような方法はないか。例えば、職業訓練をするために、地場産業を支える補助金などそういう制度を市役所で探してもらおうとか。

(竹内委員)

おもてなしの仕事でも、ある研修を受けないとできないとか、どんな仕事でもそういったことはあるのではないか。

(齋藤副会長)

事例として、こういう課題がでていくということを紹介した。

(事務局)

真珠の件については、三重県真珠養殖連絡協議会によれば、核入れの応募者が多いようであれば、三重県水産課が核入れ研修をしてくれるとの話を聞いて

ている。とりあえず、真珠組合や農協を中心にして繁忙期で人手がいるところで働いてもらうということを考えている。たしかに、子育て世代の方からも応募があるかもしれないと思う。

(加藤副市長)

仕事を覚えないまま保障的に仕事量が同じでないのに同じ給料をもらえるというのは個人の成長を促さないのが良くない。漁師では一人前に獲れるようになるまで3年はかかると聞いている。

(城山委員)

- ・漁師の世界では3年。国の支援制度も3年で区切られており、「3年で一人前になってください。」と言う風になっている。
- ・地域によっては、漁師になりたい人を支援する制度があり、山口県では県が月15万円を支援したり、熊野市は月10万円位の支援をしたりしている。
- ・百五銀行さんから私たちの漁師塾へオリーブ栽培をしてみてはどうかと話をもらっている。オリーブ栽培は、明治時代に気候が似ているということで志摩と高知と小豆島で始められ、小豆島だけオリーブ栽培が残ったそう。
- ・私たちのところでは、きんこを作って販売もしているの、銀行が話をもってきてくれた。ただ、塾生は土地を持っていないので、木が植えられるような土地を貸してもらえないという問題がある。

(事務局)

オリーブについては、地域振興と言うことで、志摩市と百五銀行で協定を結んでいる。オリーブもまだまだ試験的に始めたばかりで、いかに本数を増やして、それを地域の中でどう活用していくか、取り組みを進めている。

(城山委員)

志摩は昔から半農半漁で、漁師が農業もすれば良いと思う。

(岩崎会長)

- ・資料を読んで、何かあれば意見を事務局までいただきたいと思うので、よろしく願いしたい。
- ・これで議題は全て終わりましたが、事務局から何かあるか。

4 その他

地元の方からさらに意見を聞くため、審議会の委員数を現在の15名から20名に増員するよう条例を改訂する予定である、と事務局から委員へ伝えた。